

部活動地域移行の進捗状況について

1 国の動き

国は、少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組むことを求めています。その際、生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要としています。

そこで、令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が作成され、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、考え方が示されました。

Ⅲ 学校部活動の地域連携や 地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、その進め方等について示す。

(主な内容)

- ・ **まずは休日**における地域の環境の整備を着実に推進
- ・ **平日の環境整備はできるところから**取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進
- ・ ①市区町村が運営団体となる体制や、②地域の多様な運営団体が行きとむ体制など、**段階的な体制の整備を進める**
※地域クラブ活動が困難な場合、合同部活動の導入や、部活動指導員等により機会を確保
- ・ **令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間**として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて**可能な限り早期の実現を目指す**
- ・ 都道府県及び市区町村は、方針・取組内容・スケジュール等を周知

2 県の動き

県は令和6年度から「中学校部活動改革推進プロジェクト」を立ち上げ、有識者による部活動地域移行推進委員会や部活動地域移行推進協議会を設置し、各市町組合の実情に応じた移行の在り方について検討を重ねています。子どもたちが身近でスポーツ・文化芸術活動を継続して活動できる環境づくりをめざし、学校と地域社会が連携のもと、学校部活動の地域移行に向けた総合的・計画的な取組等を進めるために「兵庫県部活動地域移行推進計画」(令和6年(2024)年7月)が策定されました。

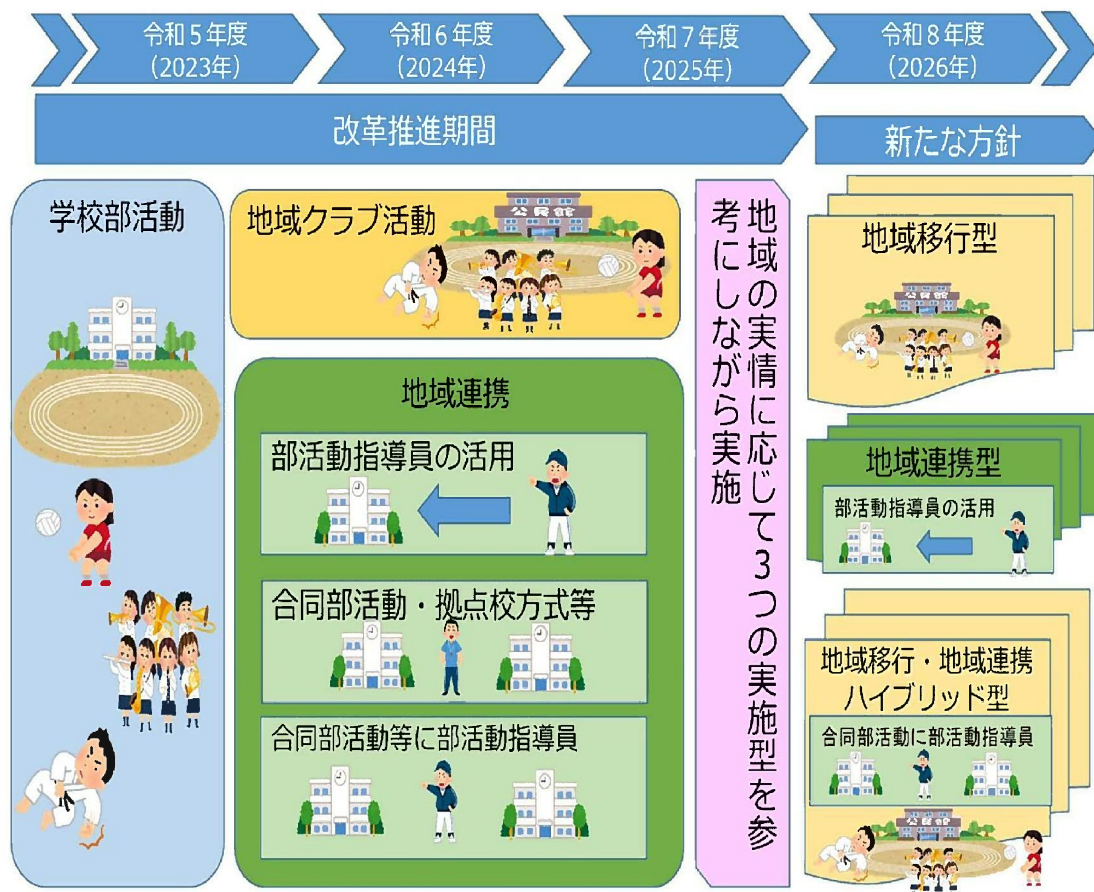
【兵庫県の目標】

令和5(2023)年度から令和7(2025)年度中に、本県市町組合においては個々の課題をふまえながら円滑で段階的な地域移行の検討を進めることとし、令和8(2026)年度から以下のとおり実施することを目標とする。

○各市町組合は、地域・学校の実情に応じて「地域移行型」「地域連携型」「地域移行・地域連携ハイブリッド型」の3つの実施型を参考にしながら、中学生の持続可能な活動機会の確保をめざす。

○各市町組合は、休日の部活動において、兼職兼業等により指導を望む場合を除き、原則、教職員が従事しなくてもよい環境づくりをめざす。

【図1】学校部活動の地域移行・地域連携（イメージ）



「兵庫県部活動地域移行推進計画」（令和6(2024)年7月/兵庫県教育委員会）から

3 加東市の動き

国や県の動きを受け、加東市では、地域の実情に応じた地域移行を進めるべく、令和5年度に「加東市部活動あり方検討委員会」を設置し、地域の関係団体（スポーツ・文化芸術）、保護者、教職員の代表が一堂に会し、今後の方向性について協議を進めています。

【構成員】大学教授、加東市文化連盟、加東市スポーツ協会、スポーツクラブ 21 加東市連絡協議会、加東市スポーツ少年団本部、加東市スポーツ推進委員会、加東市連合PTA、教員、生涯学習課

【会議の開催状況】令和5年度…4回開催

令和6年度…2回開催（令和6年11月末現在）

国や県の状況を共有し、学校と地域が連携のもと、子どもたちがスポーツや文化芸術活動を継続していく体制を整えていくことを確認しました。また、委員からは考えられる課題として次のような意見が出ました。今後の県・市の方向性等を確認し、体制整備に必要な要件等について協議。

- | | | |
|----------------|---------------|-------|
| ・指導者の確保 | ・登録する指導者の条件 | ・移動手段 |
| ・中体連主催大会への参加条件 | ・指導者と学校との連携方法 | ・参加費 |

【アンケートの実施】

令和6年3月末に、アンケートを実施しました。

対象：児童生徒 5年生～8年生（中学校2年生）とその保護者、教職員、関係団体
〔結果概要〕

○児童が中学生の間にやってみたいスポーツや文化活動として、「ソフトテニス」「バスケットボール」「バレーボール」が上位を占めている。

○生徒が新たにやってみたいスポーツや文化活動として、「バスケットボール」「ソフトテニス」「バドミントン」が上位を占めている。

○現在、加東市内で活動している部活動の種目以外のニーズは下記の通りであった。

【児童】ダンス、水泳、科学、eスポーツ、柔道、空手、飼育園芸、弓道、園芸、英語、ピアノ

【生徒】体操、乗馬、写真、円盤投げ、フットサル、ドッジボール、テーブルゲーム、ゴルフ、クライミング、格闘技

○保護者がやらせてみたいと思う種目は、「野球」「陸上」「バスケットボール」「バレーボール」が上位を占めているが、地域展開の際は、「子どもに任せる」と回答した保護者が約8割である。

○教員の7割が地域や外部に指導をお願いしたいと考えている一方で、条件が合えば自分も地域指導者として関わりたいと考えている教員が3割いる。

○現時点では、「指導」という観点での受入れは難しいと考えている関係団体が多い。

【実証事業の実施】

土日に部活動指導員が中心となって運営・指導した際に、どのような課題が生じるかを洗い出すため、各校1つの部活動で実証事業を実施しています。

社中学校…剣道部 [臨時講師が部活動指導員を兼務、地域団体との連携]

滝野中学校…女子卓球部 [地域人材が平日も含め部活動指導員として勤務]

東条学園小中学校…女子ソフトテニス部 [市職員が部活動指導員を兼務]

【部活動指導員・部活動外部指導者の配置】

部活動指導員…18名：顧問と同様に、単独での指導や練習試合等の引率が可能

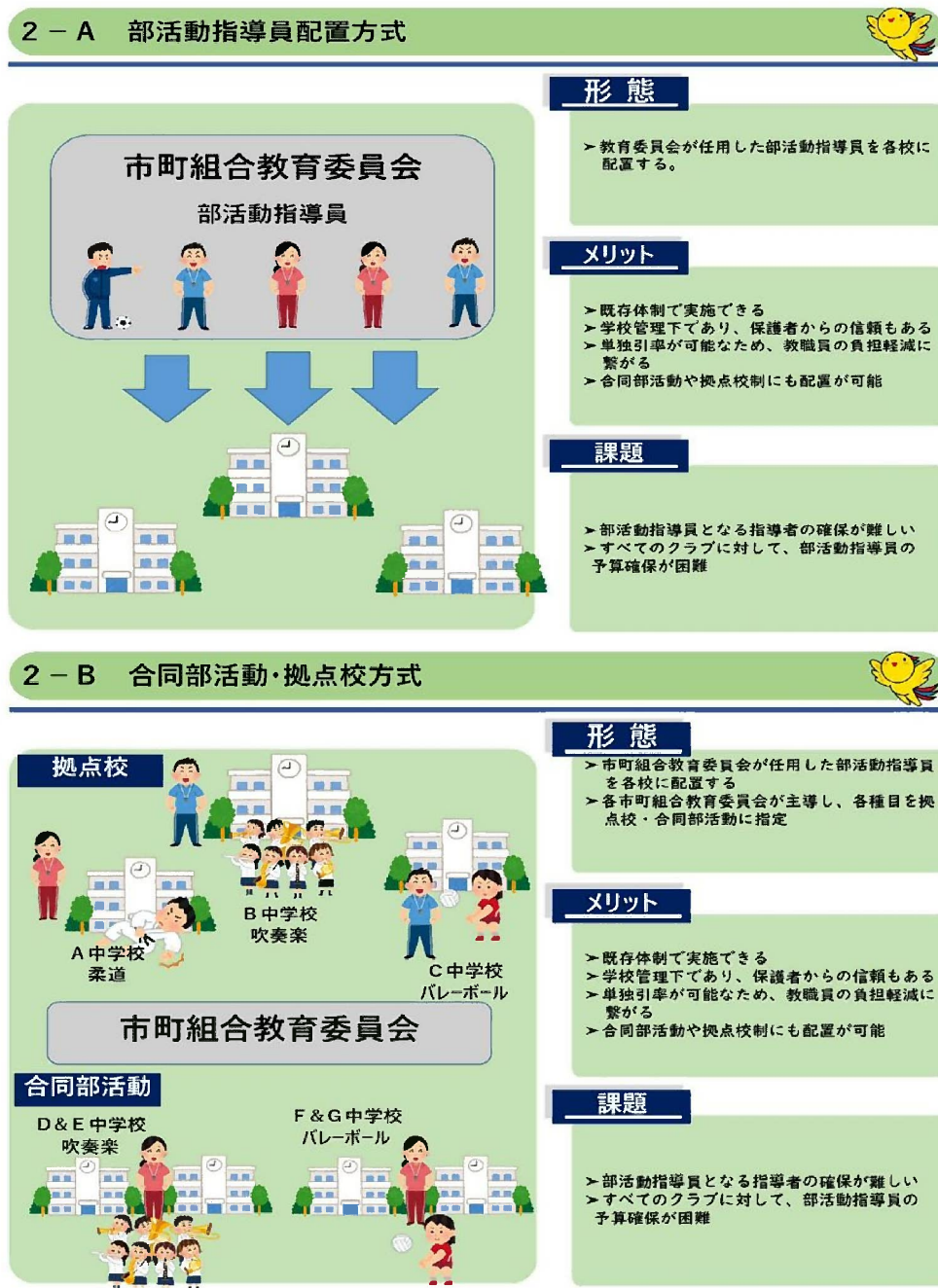
部活動外部指導者…2名：技術指導のみ

4 今後の動き

まずは、部活動指導員の増員を図りながら（令和7年度：25名予定）、地域の実情に応じて学校と連携して指導にあたる体制を整えます。

「兵庫県部活動地域移行推進計画」に示された地域連携型を中心に、今後は地域移行型も含め、できることから中学生の持続可能な活動機会の確保をめざします。

【図2】休日における部活動の地域移行パターン例



「兵庫県部活動地域移行推進計画」（令和6(2024)年7月/兵庫県教育委員会）から